



1. タイ北部ランバン県ランバン地区の熱水性カオリン鉱床、中生代(?)の火山岩類中に分布し、鉱石は陶石に類似する、多くは粉碎・水篩により、カオリン質粘土に精製され出荷される、この地区の年産は約20万トンで、タイの全カオリン生産量の約60%を占めている。

タイの非金属鉱物資源

急速な経済成長を反映し、タイの鉱業生産高は過去6年間に55%の伸びを示し、1991年には180億バツ(約900億円)に達した、とくに石炭鉱業と非金属鉱業の伸びが目ざましい、今回、タイとの共同研究の中で、タイ鉱業の現状をかいま見た、その中から、代表的な非金属鉱床を紹介しよう。(鉱物資源部 須藤定久)



2. タイ中部タク市郊外にある花崗岩中の交代性曹長石鉱床群、ここはタイ最大の長石産地で、年間約20万トンが採掘されている。



3. タイ北部ランバン県ソップラップ地区のボール・クレー鉱床、タイ最大の規模で、4鉱山が稼行中、第三紀の小堆積盆地を埋めた重炭とボール・クレーを大規模な露天掘りで採掘している、この地区のボール・クレーの年産は約6万トン、バンコック市周辺へ送られ、衛生陶器やタイル原料として利用されている。